

# 2018 年度五代友厚記念事業報告書 (2018.4 - 2019.3)

## —目 次—

### I. 五代友厚記念事業

#### 1. 五代友厚伝 (出版)

執筆者八木孝昌氏講演レジメ (6/9、11/3、11/10) 1

2. 国際ビジネス演習 (シラバス、講義日程) 8

#### 3. 海外インターンシップ

海外インターンシップ体験レポート 9

海外インターンシップ報告会 (10/4、11/3) 11

4. HCD 「五代友厚と音楽の集い」 12

5. 五代友厚パネル展示 13

### II. 五代友厚友厚記念事業プロジェクト寄付

1. 五代友厚記念事業プロジェクト寄付協力のお願い (再度のお願い) 14

2. 寄付お願いチラシ (2018.7 版、2018.10 版、2018.12 版)

**五代友厚記念事業委員会**



## I. 五代友厚記念事業

### I. 五代友厚伝（出版） 執筆者八木孝昌氏講演レジメ

有恒会定期総会記念講演会（2018.6.9）『五代友厚伝』事始 八木孝昌（経昭 41）

#### 一、14歳の五代友厚が模写したと諸五代友厚伝が述べる「世界地図」の出現

五代友健（五代友厚の兄）の子孫の吉崎敬三（寝屋川市）が所蔵する「新訂万国全図」（幕府天文方高橋景保制作）が昨年、鹿児島県歴史資料センター「黎明館」に寄託された。

その世界地図こそは、五代伝のほとんどが取り上げる「14歳の五代友厚が模写した」とされる世界地図であった。たとえば宮本又次『五代友厚伝』は、次のように書いている。

五代が十四歳のとき、島津斉彬は父の秀堯に命じて、かつて外国で買った世界地図を模写させたが、五代は父の命により二枚を写し、一枚はこれを公に献じ、一枚はこれを自分の書齋に掲げ、修業の余暇、常にこれをながめ、イギリスの隆盛なるを思い、わが国もかくあるべしと感じた。

寄託されたその地図には五代友健・友厚の父秀堯の手になる漢文の添書きが添付してあり、同地図の模写に関する詳細が記されていた。それは驚くべき内容であった。以下は鹿児島県観光戦略部の専門員吉満庄司『『五代友厚の開明性を育んだ家庭環境』——新発見の世界地図を中心に』という報告書による。

「天保十年冬十二月 五代秀堯識」と署名された漢文には、薩摩藩の石塚家が高橋景保制作の「世界全図」を所蔵していたので、借りてきて「男<sup>むすこ</sup>友健をしてこれを写さしむ」とある。そして、「凡そ三十日にして功畢る。四隅の小図の如きは、即ち妻本田氏の模写する所に係る。友健まさに十三、観る者その精緻に服し、称するに奇童を以てす」と続いている。

これによって、「世界地図」は藩主斉彬が「外国で買ってきた」ものではなく、五代秀堯に模写を命じたものでもなく、秀堯が「14歳の友厚」に模写を指示したのもでもないことが明らかになった。そもそも五代友厚が14歳のときの藩主は斉彬ではなくて斉興である。模写が行われた「天保十年（1839）」には天保6年（1835）生れの友厚は5歳である。

そうすると、五代伝の中の友厚世界地図模写のくだりは、細部を含めてすべてが《フェイクニュース》であることになる。どうしてこんなことが起きたのだろうか。

#### 二、英明藩主島津斉彬

第11代島津藩主斉彬公は嘉永4年（1851）から安政5年（1858）までの7年間、第11代島津藩主として藩の富国強兵政策を進めるとともに、積極的開国を説いた。併せて、藩内の若手武士を取り立てて人材育成した。

此の場に至りて通商を開かざるは不策にて、兎角此方より押掛けて開くを上策とす。就いては、内の差<sup>きつかさへ</sup>間なきやう、速く物産繁殖の道と軍備をととのへ、彼の輕蔑を受けざ

る様国威を張り通信交易するに外なし。(『島津斉彬言行録』岩波文庫)

今の世となりては日本一体一致の兵備にあらざれば、外国に対当すること叶ふまじく、公義も諸大名も是れまで一国一郡位の心得にては日本国の守護は調ふまじく、・・・日本一致一体となり、器械も何も一様の良器備りてこそ、本途の防御調ふべし。(同上)

藩主斉彬のもとで取り立てられた友厚は、安政4年(1857)、23歳のとき、幕府の長崎海軍伝習所に派遣され、航海術・砲術・蘭学等を学ぶ。そこに勝海舟がいた。

友厚についての資料が残っている限りで、友厚は一度も攘夷思想を抱いたことはない。一貫して開国主義の開明派である。友厚は英明藩主斉彬の思想の継承者の一人であった。

### 三、薩英戦争

文久2年8月、薩摩の大名行列を横切った乗馬の英国人たちを藩士が襲い、一人を殺す生麦事件が起き、犯人処罰と賠償金を要求して英国艦隊が翌年6月、鹿児島湾に来航する。そのとき、薩摩藩の蒸気船三隻が鹿児島湾の一隅の入江にいて、船奉行の松木弘安(のちの外務卿寺島宗則)と船奉行副役五代友厚が乗船していた。ところが英国艦隊に発見され、拿捕されて、乗組員が下船させられた後、松木と五代は英国艦隊の捕虜となる。拿捕された藩の船三隻が曳航される段階で、7月2日正午ごろ薩摩藩側の砲撃が始まり、英艦隊が応戦した。球形の砲弾を発射する薩摩の自家製大砲に対して、英艦隊の大砲は炸裂弾を発射できるアームストロング砲だったので、薩摩の砲台と集成館に大きな損害を与えた。

砲撃戦の終わったのは翌日であるが、すべての五代伝が書いているエピソードがある。

上陸を試みようとしたキューパー提督は松木と五代を呼んで、薩摩の兵力を訪ねた。すると五代が「薩摩には命知らずのサムライが10万にいる。英国海軍側に陸戦で勝ち目はない」と誇大な虚言を弄して、英海軍の上陸を断念させた、というものである。

このエピソードが真実であるかどうかについては、旗艦ユーリアラス号に乗っていた三人の人物が幸いなことに記録を残している。

○英国外交官アーネスト・サトウの『一外交官の見た明治維新』

○幕府の許可を取って乗船していた通詞清水卯三郎の「清水卯三郎談話」

○船奉行として捕虜になっていた松木弘安がのちに書いた『寺島宗則自叙伝』

※ 松木は友厚より3歳年上で、藩から江戸へ派遣されて蘭学を学びに医師および蘭学者となった薩摩藩切っ手の英才開明派である。薩英戦争の前年には幕府遣欧使節団の一員として派遣されている。薩英戦争時の捕虜の件を『自叙伝』に書いているが、友厚のエピソードについては記述がない。エピソードが真実であれば、藩の船を失った負い目をもつ当事者がそれを書かないはずはない。これも《フェイクニュース》の公算大。

では、これまでの五代伝が《フェイクニュース》を何故真実として取り上げるのか。元凶は、五代が亡くなった明治18年から10年が経過した明治28年に五代の鉱山会社弘成館の

社員とおぼしい「弘成館員 片岡春卿」が書いた『贈正五位勲四等五代友厚君伝』である。五代の娘の婿養子の五代龍作が昭和8年に『五代友厚伝』を書いたときにこの『五代友厚君伝』を種本に使い、次に宮本又次が『五代友厚伝』において、出典を示さないまま、以上の二つの事柄について『五代友厚君伝』をほぼそのまま写したために、他の五代伝がそれを真実として受け売りするようになった。

#### 四、薩摩藩英国留学生

松木弘安と五代友厚は清水卯三郎の好意によって武州に潜伏するが、その年の12月に薩摩が英国に賠償金を支払って和解したので、五代は松木を残して、翌年1月に長崎に戻る。そして藩宛に「上申書」を提出する。

最初に藩の蒸気船三隻を失ったことを「重罪」として詫びたあと、様々の提案を書き連ねるが、その中に「英仏両国へ遊学人数拾六人」という項目で、軍事・機械取扱・病院等社会施設、農業、地理風俗等様々の分野の研究のために16人の藩士を英仏に留学させるよう人選をしてもらいたい、という提案をしている。この提案が藩の承認するところとなり、翌年の慶応元年2月に家老新納を責任者とし、五代・松木を含めた19人が英国留学生として幕府禁制のもと長崎在住の商人トマス・グラバーの助力によって英国へ密航。

五代は新納を伴ってマンチェスターへ行き、小銃2550挺を買付。さらに、ベルギー貴族モンブラン伯爵と出会い、10月に「ベルギー国商社条約」の契約を結び、薩摩とベルギー国商社の合弁会社によって、薩摩の鉱山開発・種々機械製造・ヨーロッパ産物の輸入等の事業を行う契約書にベルギー政府証人立ち合いのもと、五代・新納とモンブランが署名。さらに12月にはモンブランと「砂糖製法蒸気機関・木綿紡績機関（英国「ハリヘックス・ヘーレン商社」経由）・修船機関等の輸入」の契約書を交わしている。また、同年10月には家老の桂久武に書状を送り、「攘夷の巨魁を共に欧羅巴の形勢を見せしめ、我彼れの国体政務の得失を目下に決論し、天下列藩志を一にして国政の大変革を起し、普く緩急の別を立、富国強兵の基本を相守り、国政を振起せば、拾余年の功を待たず、亟細亟に闊歩すべし」と書いている。これは旧藩主斉彬の思想を同じである。

他方、松木弘安はロンドンにあって外務大臣に面会し、「諸外国が幕府と条約を結んでいるけれども、日本の条約締結の主体は王室であるべきで、幕府に服従しない各藩はそういう新しい政治体制を目指している。英国にはその『帝権復興』に助力願いたい」と説く。これが受け入れられて、後日英国外務省はパークス英公使に薩摩支援の指令を発することとなった。（『寺島宗則自叙伝』）

#### 五、北海道開拓使官有物払下事件

標記事件は明治政府が殖産興業のために政府自ら産業を興し、それを民間に払い下げる経過の中で、最後に残った北海道開拓使の事業を明治14年に払い下げるについて、東京横浜毎日新聞が7月26日から三日間、「明治5年から政府が1400万円（1400億円に相当）

を投じて行ってきた開拓使の諸事業すべてが北海道と関係のない五代友厚たちがつくった『関西貿易商会』に格安で払下げられようとしている」という一大キャンペーンを張った。7月29日に承認された「払下げ」は、10月11日の天皇御前会議で取消になった。払下げは取り消しになったけれども、五代は政商であるという悪名が残った。

昭和55年に出た宮本又次の『五代友厚伝』も五代政商論の枠組みと異なる論を立てているわけではない。(昭和49年に出た『五代友厚伝記資料』第4巻の「解説」には、「官を辞して実業界にとびこんだ友厚は薩摩藩閥を代表する実業家として、当初より国家権力との間に強い癒着関係が存在した」とある。)

しかし、平成26年に九州大学経済学会の「経済学研究」第80号に宮地英敏の「北海道開拓使払下げ事件についての再検討——誰が情報をリークしたのか」という論文が出て、五代の見直しが図られた。さらに、平成29年には「住友資料館報」第41号に載った末岡照啓の論文「開拓使官有物払い下げ事件」再考——関西貿易社の五代友厚と広瀬幸平を通して」が新たに見つかった五代の「弁明書」を紹介して、五代の《無実》を明らかにした。

○資料「開拓使改革事業案」の存在： 倉庫・船・土地・麦酒醸造所・牧場・葡萄酒醸造所・缶詰所等24物件が個別に金額見積りされ、合計387,082円。黒田清隆開拓使長官宛の当文書には「前書き」があつて、開拓使事業に吏員として挺身してきた「小官等一社を設立」するので、そこに以下の官有物を払い下げていただきたい、とある。払い下げに消極的だった黒田長官は、これを受けて明治14年7月21日に太政大臣三条実美に「払下げ伺い」を提出した。そして29日に「聴許」された。この動向の渦中で東京横浜毎日新聞は7月26日から3日連続で、関西貿易社への払い下げを批判した。

○9月7日付広瀬宛書簡添付「五代弁明書」の発見： 住友資料館で同事件について五代の書いた弁明書が発見された。内容は、①開拓使官有物の払い下げ先は、開拓使事業に従事していた官吏たちが設立した「北海社」である。②関西貿易社が払い下げを受けることになっていたのは、岩内炭鉱と厚岸の山林の2物件に過ぎない。また、同書簡では、「必らず意とすること勿れ。之を放擲して顧みざれとの内諭を得たり。政府は必らず深意の在るあるを信じ、我輩は弁明するの念を絶ちたり」と書かれている。なお、北海社と関西貿易社が将来合併する可能性を示唆したメモ風文書が存在し、それが五代の構想であったとする見方が存在するが、同文書に関西貿易社の払下げ物件とは異なる「幌内石炭販売」と「鱒ノ缶詰所」が入っているので、「北海社」の願望の可能性大。

○東京横浜毎日新聞は《誤報》の情報をどこから入手したか： 関西貿易社の共同出資者であった住友の総代理人広瀬幸平は払下げを控えて、岩内炭坑の視察に行き、石炭の品質が劣ることを知る。払い下げを辞退すべきだと考えた広瀬は7月22日に帰阪する手前で、東京に立ち寄った。しかしすでに事態は進行していたので、広瀬はこの払下げを実現させないために、三菱財閥の幹部で、親交のある川田小一郎に払下げ情報をリークした。そこから東京横浜毎日新聞と三菱関係者に情報が伝搬した、と宮地論文は推定している。ただ、この論がなくても、五代の汚名は末岡論文ですすがれている。

HCD「五代友厚と音楽の集い」(2018.11.3)『五代友厚伝』ミニトーク

五代友厚伝(仮題)の構想:

1895年(明治28年)刊行の『贈正五位勲四等五代友厚君伝』(執筆者片岡春卿は五代の会社の社員)は、間違った《ホラ話》をいくつも書いている。1933年(昭和8年)の五代龍作『五代友厚伝』や1981年(昭和56年)の宮本又次『五代友厚伝』が、その《ホラ話》を踏襲したので、それが他の五代伝(10種類以上)にも影響を与えて、世の五代伝はどれも不正確な伝記になっている。私は可能な限り新資料を集めて、事実に基づく五代像を構築するとともに、五代は生涯を通じて何をを目指したのかを明らかにし、もって大阪市立大学開学の祖五代友厚を顕彰するつもりである。五代伝は二部構成で、第一部は「幕末維新疾駆編」、第二部は「商都大阪颯爽編」とする。

2018. 10.22

「五代友厚と音楽の集い」

四者協連絡協議会(体育会,音楽系サークル,文化系サークル,応援団)、Hijicho(新聞部)、同窓会からなる実行委員会形式の同窓会主催で、在学生に五代友厚のことに関心を持ってもらうような音楽イベントをHCD(11/3)に五代スクエアにて開催する。

○日 時:平成30年11月3日(土・祝) 11:00~16:00

○会 場:五代スクエア

○時 間:第一部 11:00~13:00 第二部 15:00~16:00

○主 催:大阪市立大学同窓会(五代友厚記念事業委員会)

○後 援:四者協議会、Hijicho、企業家ミュージアム、鹿児島県大阪事務所

○催 事 (1)五代友厚テーマ音楽系サークル催し

(2)五代ミニ検定(参加賞,優秀賞進呈)

(3)五代パネルの展示

(4)五代友厚記念事業プロジェクト紹介

・「五代友厚伝」(仮称)著者八木孝昌氏によるミニトーク

・海外インターンシップ(バンコク、香港)体験報告会(4人による報告)

・五代友厚記念事業プロジェクトの紹介と寄付のお願い

(5)鹿児島県大阪事務所PRパネル展示

以 上

「五代友厚ゆかりの足跡&花外楼を訪ねて」トーク資料 八木孝昌 2018.11.10  
五代友厚伝（仮題）の構想

明治 28 年刊『贈正五位勲四等五代友厚君伝』（片岡春卿、五代の会社の社員）には、間違った《ホラ話》がいくつもある。昭和 8 年の五代龍作『五代友厚伝』や昭和 56 年の宮本又次『五代友厚伝』が、その《ホラ話》を踏襲したので、それが他の五代伝（10 種類以上）にも影響を与えて、世の五代伝はどれも不正確な伝記になっている。私は可能な限り新資料を集めて、事実に基づく五代像を構築するとともに、五代は生涯を通じて何を目指したのかを明らかにし、もって大阪市立大学開学の祖五代友厚を顕彰するつもりである。五代伝は二部構成で、第一部は「幕末維新疾駆編」、第二部は「商都大阪颯爽編」とする。

堺事件が起きた翌日、慶応 4 年（1868）2 月 16 日の五代について

○ 『贈正四位勲五等五代友厚君伝』（片岡春卿、明治 28 年刊）

仏艦からは被害者の死体を、十六日四時と限って本艦へ引き渡すようにという要求があった。君は係官を督励して現場に臨み、搜索させたけれども死体は容易に揚がらない。時間だけが過ぎてゆく。君は馬の鞍袋から自分の持っている金をすべて出し、他の係官からも金を集めたが、足りなかった。それで急使を堺県に馳せ、五百両を取り寄せ、自分たちの金と一緒に盆に盛り、漁師や船子たちに示して、一屍を揚げる者には幾十両をあてがうべしと言った。彼らは水に慣れているので、懸賞を見て、ためらうことなく、それぞれ競い争って、時間をかけることなく、すべての死体を引き揚げた。これを本艦に移そうとしたときには、期限の午後四時になろうとしていた。外国人は時間に約束するのに厳格である。そこで君は時計を巻き返して、二時間遅らせ、死体を毛布に包んで、本艦に引き渡した。艦長はその遅刻を責めたが、君は自分の時計を示して抗弁し、事を収めた。

○ 宮本又次『五代友厚伝』（昭和 56 年刊）

被害者の死体を一六日午後四時まで引き渡せとの要求であったが、死体は容易に揚らず、時刻は漸くうつって来た。五代は自分の有する金銭をことごとく出し、他の係官からも所持する金を集めた。懸賞をもって死体の引揚げをはかったのであるが、急使を堺県に馳せて更に五百両を取り寄せ、これを盆に盛り、船子に示して、一屍をあげるものには幾十両を与えるべしといった。船子はよく水になれるもので、目前の巨費を見て争って水にくぐり、屍体の引揚げをおわったという。屍体の引揚げをおわったが、これをフランス艦に送致するにあたり、時は午後四時近く、時刻を重んずる外人に対し屍体の運搬に時を要してしまっただが、五代は一計を案じて、自己の時計をまきかえし、二時間ばかりおくらせて、屍体を毛布についで仏艦に送った。定刻をすぎること一時間、五代は自分の時計を示して臆せずして、時計に狂いはなしと抗弁し、承服せしめたという。

○ 『伊達宗城公御日記』（平成 27 年刊）2 月 16 日条に記録されたフランス公使ロッシュからの要求書。この要求書は、『復古記』第二冊（昭和 4 年刊）・『大日本外交文書』第一巻第一冊（昭和 11 年刊）にも収録されている。

二月十六日 ミカド政府 外国事務掛 東久世前少将と伊達伊代守 殿



このような事件は甚だしい禽獸夷狄<sup>きんじゅういてき</sup>の蛮行と言うべく、ついでにはフラン公使はヴェ  
ニウス号へひとまず引き取っているの、右の行方不明者残らず生死にかかわらず、フ  
ランス側へお返しくださるよう、明朝八時までは猶予時間を与えるので、以上のことを、  
現在大坂を支配している現政府へ通告する。万一右の通りにご処置がなければ、どんな  
謝罪をお申し入れになられようとも、文明国の法律に違反するのみならず、ことに先般  
取り決めた約定書や条約の文言に違背し、また今のミカド政府の側近として重役を務  
める某大名の家来の所業でもあるので、これに対して相当と考える処置に及ばざるを  
えず、そのことを申し述べる。 フランス公使レオン・ロッシュ

右の件について東久世(兵庫外国掛総裁)は五代(大阪外国事務掛)を召し連れて堺港へ行き、  
私(大阪外国掛総裁伊達)は役所へ帰って京都への報告その他を取り計らった。

○ 堺町役人の記録「御触并風説留」(『堺市史資料』第25巻所収)中の堺事件

十六日早朝に、(フランス側の報復攻撃を想定して)堺港に出動していた土佐藩兵たちは皆引  
きあげてきて、残らず大阪表へ引き取られた。一体何事だろうと皆が噂した。

浜には外国人の死体が二体揚がり、七ツ頃(午后四時頃か)その死体は新地会所に置か  
れ、岸和田藩の役人が番をした。

同じ時刻に、外国掛の東久世少将様が本陣にお入りになった。(中略)浜の方を巡視さ  
れ、旭野茶屋で休息され、お引き取りになった。その際、濱の船子たちに、死体を探す  
ようにとお申し付けになった。早速その用意をして、両川側に大きなかがり火を立てて  
焚き、川底へ漁網を入れて、七人の死体を揚げ、合計九人の死体を棺に入れ、十七日早  
朝に人足を仕立てて、大坂へ送った。

○ 外国事務総裁伊達宗城よりロッシュ公使宛て書状——『大日本外交文書』第一巻

ただいま四時に東久世が堺から帰坂しました。現地においては掛りの役人に命じて海  
底を搜索させ、死骸引上げを進めており、その死骸は委細に取り調べ、その数および手  
疵等に至るまで明朝八時までに詳細をご報告するつもりです。

二月十六日夜四時

○ フランス兵遺体検分書——『復古記』・『大日本外交文書』収録

・・・ 一水夫 背より右の腹乳の上へ抜る

右の通り相違なく御座候

二月十六日十二字(時)

五代才助・西園寺雪江・中井弘藏

○ 『伊達宗城公御日記』二月十六日条

十七日明け方、西園寺と五代が帰ってきて、調査したところ、土佐藩の申し出とは全く  
相違して、仏人は一切乱暴などはしていないのに、無法に土佐藩士から発砲殺害に及ん  
だことが判明した。

死体を探し出した者へは金三十両提供すると触れを出したので、皆競ってがんばり、と  
うとう七人探し出したとのこと、内一人は士官がいた。それぞれに棺桶を用意させ納棺  
させて、早曉までには大坂へ回したとのこと。

## 2. 国際ビジネス演習 (シラバス、講義日程)

【科目ナンバー : 1】

開講年次	科目名	担当教員	単位数	履修科目	担当教員
27	国際ビジネス演習 (五代友厚 寄附講座)	Global Business Practices	2	演習	下崎 千代子 (非常勤) 准

### ●科目の位置

日本社会においては、グローバル人材の育成が喫緊の課題となっていることから、この科目は、演習科目での名称を上限として、追加でのオン・オフライン学習を併用する。題意は、海外での企業経営者を中心とする。既知の実務経験は関与を要しない。1回は各国のビジネス習慣・文化・宗教・価値観の違いについて講義し、2回目は半ば対話しながら問題を掘めるといった方法をとる。

### ●授業の到達目標

グローバルなビジネスが展開する中で、異文化を理解し、各国ごとのビジネス習慣、仕事に対する考え方が異なることを理解する。

### ●授業内容・履修科目

- 第1回 国際的なビジネスマナー
- 第2回 国際ビジネスの倫理
- 第3回 グローバル人材に求められるもの
- 第4, 5回 グローバルビジネスの発展
- 第6, 7回 北米 (USA, カナダ) における企業経営の特徴
- 第8, 9回 香港における企業経営の特徴
- 第10, 11回 タイにおける企業経営の特徴
- 第12, 13回 全米実務の国際比較

### ●科目

●科目 本コースにおける企業経営の発展  
●科目 本科目の意義  
内容については逐次改定される場合があります。詳細は、担当教員にてお問い合わせください。

### ●事前・事後学習の内容

事前には、各国を地域に関する事前学習を要す。事後には、レポートなどで授業内容を振り返り、学習内容を定着させる。

### ●評価方法

各講義が総合的に5点-10点満点で評価。最後に、国際ビジネスに関するレポート課題(10点)を課す。

これを総合して評価する。

### ●履修上の留意点

本講義は、グローバルな企業経営者を目指す方と見做す。履修者のみならず、国際インテリゲンチアの育成にも貢献する(予定)。

また、本講義は専攻履修要綱以外に、レポート・プロジェクト等により、履修者の選定を要します。詳細は履修要綱履修要綱に準じてお読みください。要領に従って応募ください。

### ●教授 村

本講義は、村

## 国際ビジネス演習 (五代友厚 寄附講座)

兼任教員 下崎

開講は原則2回講義 2回目はテーマを決めて討論

場所は杉本キャンパス

水曜日 5時限目

NO	日付(予定)	時刻	研修科目	講師
1	4月11日		グローバルなビジネス展開に必要なもの (一週学生に開放授業)	講師 実務家 兼定
2	4月18日		異文化を理解するには 各国の文化、宗教、価値観の違いを理解する	松永先生 商学部主任教員
3	4月25日		グローバル人材に求められるもの 多岐のビジネス慣習を理解する	後 兼務課 伍南大学客員教授 元あびきた駐米法人
4	5月2日			
5	5月9日			
6	5月16日		北米における企業経営の特徴 北米の企業経営の考え方を理解する	寺川 幸之 元三井電機カナダ法人社長
7	5月23日		シリコンバレーの起業家精神について	同上
8	5月30日		中国における企業経営の特徴	実務家 兼定
9	6月6日		中国の企業経営に関するテーマを決めて討論	同上
10	6月13日			
11	6月20日		会計の国際比較	公認会計士 藤田洋 (アメリカ駐在2年)
12	6月27日		税関と会計に関する英語集と英会話 英語での討論	同上
13	7月4日		香港における企業経営の特徴	香港ビジネスパートナー 松崎 真真 香港 在住 2019年
14	7月11日		香港の企業経営に関するテーマを決めて討論	同上
15	7月18日		まとめ	下崎千代子

講師 0名決定 兼定 0名

### 3. 海外インターンシップ

#### 海外インターンシップ体験レポート

#### Hong Kong Navigator Consultants Ltd.におけるインターンシップ報告書

##### インターンシップの内容について

このインターンシップにおいて、私は大きく分けて 2 種類の業務を経験させていただいた。

まず 1 つは、大学オリジナルグッズの香港における販路開拓に関わる業務である。これについて、関係者との面談や電子メールによる連絡、電話での問い合わせなどを行い、収集した情報を書類にまとめるなどした。いま 1 つは、Hong Kong Navigator Consultants の会社運営における事務作業である。これについて、クライアント企業の書類や HKNV の就業規則などの重要書類などの確認を行った。

##### このインターンシップによる自己の変化

このインターンシップを通して、私は人と一緒に何か仕事をしたり、私的な時間を過ごすことが自分にとって幸せと感じるということに気づいた。

これまでの学生時代を通して、私は一人で作業をすることが自分にとって最もやりやすく楽しい方法だと思っていた。特に大学生になって、クラス制に縛られなくなり、自由に行動するようになってからは私は一人行動ばかりしてきたように思う。例えば、落語研究会で何かしらのイベントを行う際には、一人で企画を構想して、一人で説明書類を用意して、一人でサークルのメンバーに対する発表準備をして、一人でメンバーに対する作業を少しずつ割り振り、イベント当日の全体の作業の半分以上は自分で手掛けるようにしていた。私は誰かと合意形成をしたり意思決定をするよりも、こちらの方が効率的にものごとが運べるし自分自身が楽しめるのだと半ば信じていたからだった。また、私的な余暇時間は誰かと連れ添って行動するよりも、一人で過ごす方が気兼ねなく行動できるので、自分の満足度は高いと思いこんでいた。

しかし、インターン先の森實社長の考え方はこれと全く逆であった。彼はネットワークの大切さを知っている。そして、役割分担の大切さを知っている方である。私は彼の近くで約二週間を過ごさせていただく中で、彼の考え方や、実際に彼が見ている光景を目の当たりにすることができた。会社内ではスタッフの方々が楽しそうな雰囲気でお仕事をされている中で、日々チームワークを発揮して互いの仕事のパフォーマンスを最大化しようとしている姿や、ときに仕事についての議論を行う姿がみられる。彼曰く、HKNV のスタッフは森實社長も含めて役割分担をしあって仕事をしている。私は彼・彼女らが役割分担をすることで、互いに尊敬の気持ちを持ってチームワークを発揮しているのだと理解した。そして、そのように仕事をする彼女らの中で私も 10 日間を過ごさせてもらい、私自身も役割分担とチームで力を合わせて仕事をする、そして何

よりお互いに尊敬し合う関係性を築くことの素晴らしさを知った。

また、森實社長は約二週間の期間中、私を沢山の会食の場に連れて行ってくださった。私はこんなにも誰かと会うこと、誰かの話を聞くこと、誰かに自分の話を聞いてもらうこと、を連日経験したのは実は大学生になってから初めてのことだったのだが、こういった場が自分でも驚くほどとても楽しかった。自分なりになぜ何人かで食卓を囲んで話をすることを楽しいと感じたのか、理由を考えてみたのだけれども、言葉にできなかった。とにかく私は自分が外向的な人間か、内向的な人間かという認識を間違っていて過ごしてきたということだけは分かった。

日本に帰国して、自分の身の回りに一緒に作業であったり遊んでくれる人がいないことをとても寂しく思って、大学生になってからネットワークを作っただけでよかったことを深く後悔した。私は4回生になってしまったので、今から残された時間はそれほど多くないが、たくさんの人と出会い話し合う経験を積もうと思っている。

#### 香港滞在中に得た気づき

香港滞在中に、私は香港にいる方からの日本人および日本製品に対する愛情・尊敬の眼差しを強く感じました。例えば、私は香港滞在中に出会った香港人と中国人から「日本人はクレバーだ」と言われました。もちろん彼らは私の大学をご存知のわけでも、仕事の出来・不出来を知っている訳でもありません。彼らは自身の中にある日本に対するイメージからこのような発言をしたようです。あるいは、私は毎日のように香港で日本製品や日本製品のコピーを沢山目にしました。例えば、日本の化粧品や、日本のテレビ番組・映画作品や、日本のキャラクター商品や、もっとも多いものとして日本の食品を見かけました。この事実は私がいかに日本製品が香港人に必要とされているかを思い知るのに十分でした。

日本という国は香港（そしておそらく中国も）で愛情・尊敬を持って見られていると思いました。私はいま日本では、「日本（の工業）は世界で後れを取った」とか「日本人はグローバルスタンダードから後れている」とかいう声の方が大きいと感じています。しかし、上記のように日本人・日本製品がいかにアジアの国で尊敬されているかを知った私は、この大きい声に反対のことを言いたいです。日本人・日本製品はダメと悲観的になるべきではなく、日本人・日本製品は求められる場所に効率的に自身および自身の製品を提供する努力をしなければならないのであると思います。日本がまだまだ潜在能力があって、これに対するニーズが香港や中国にあるということを感じたことは、私が香港に行って得た大切な学びです。

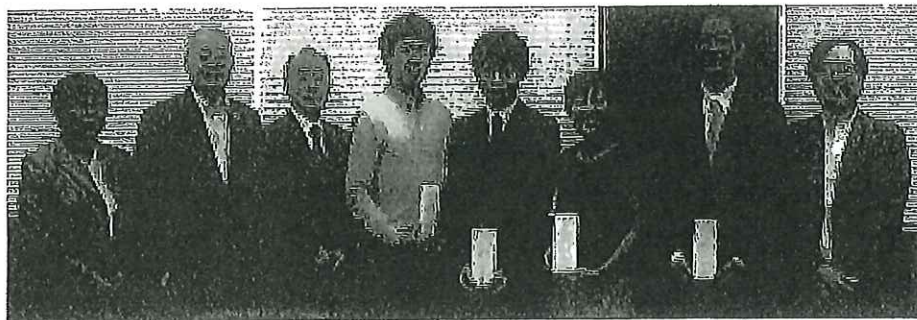
## 海外インターンシップ報告会 (10/4、11/3)

### 香港でのインターンシップについての報告

私は香港にて本学同窓生の森實章様のもとでインターンシップをしました。業務では従業員の方々と英語でコミュニケーションをとりながら、会社の事務の仕事などをしました。森實様からも香港人の従業員の方々からもフレンドリーに仕事を教えていただいたおかげで、私は日々英会話に苦戦しながらも楽しくお仕事に取り組むことができました。また仕事外でも森實様から香港のビジネスや食文化などについて沢山のことを教えていただきました。滞在中の一番の思い出は香港島の夜景を見たことです。それはとても綺麗なライトの数々と、幸せそうな観光客そして生き活きとしたビジネスマンが入り交じるといって極めて香港らしい光景でした。日本では見たことのなかった景色を見て、私はこれからももっと色々な世界を知ろう、とワクワクしながら決意しました。私は今回の貴重な経験を無駄にしないように、将来自分自身が海外で生きていく可能性も踏まえてキャリアを設計します。ご支援をいただいた皆様に心から感謝いたします。

### タイでのインターンシップについての報告

私はタイの EXEDY Friction Material 様のもとでインターンシップを経験しました。「エスノグラフィーという手法を用いて R&D (研究開発) 部門における日本人とタイ人のコミュニケーションを観察する、そしてその観察を基に商学部的な視点も取り入れ仮説を立てる」というのが今回のインターンシップの目的でした。苦戦することもありましたが、乗り越えたときの達成感は何事にも代えがたいものでした。日本人マネージャーの方やタイ人エンジニアの方の暖かさに触れながら有意義で実のある2週間を過ごすことができました。私は将来国際的に活躍できる人材になりたいと考えているのですが、今回のインターンシップを通して実際に海外で働くことを経験できたことでよりその思いが強くなりました。思い出としては、最初は辛いと感じたタイ料理が色々な種類を食べているうちに辛さにも慣れとても美味しくいただけるようになったことが嬉しかったです。このような大変貴重な経験をさせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。



海外インターンシップ支援金贈呈式【2018年10月4日、学長室】

4. HCD「五代友厚と音楽の集い」

**大阪市立大学第 17 回ホームカミングデー(2018.11.3)**

「五代友厚と音楽の集い 第二部 」 15:00～16:00

会場：五代スクエア

○「五代友厚伝」(仮題) 執筆者八木孝昌氏ミニトーク

八木孝昌氏略歴：

1941年(昭和16年)京都市生れ。1966年(昭和41年)大阪市立大学経済学部卒業。大阪市立大学生生活協同組合専務理事、大学コンソーシアム大阪事務局長、帝塚山学院常務理事を歴任。

2009年(平成21年)万葉集の研究により博士(文学)の学位取得。

五代友厚伝(仮題)の構想：

1895年(明治28年)刊行の『贈正五位勲四等五代友厚君伝』(執筆者片岡春卿は五代の会社の社員)は、間違った《ホラ話》をいくつも書いている。

1933年(昭和8年)の五代龍作『五代友厚伝』や1981年(昭和56年)の宮本又次『五代友厚伝』が、その《ホラ話》を踏襲したので、それが他の五代伝(10種類以上)にも影響を与えて、世の五代伝はどれも不正確な伝記になっている。

私は可能な限り新資料を集めて、事実に基づく五代像を構築するとともに、五代は生涯を通じて何をを目指したのかを明らかにし、もって大阪市立大学開学の祖五代友厚を顕彰するつもりである。五代伝は二部構成で、第一部は「幕末維新疾駆編」、第二部は「商都大阪颯爽編」とする。

○海外インターンシップ報告会

香港：竹内遥香さん(商4)、花本昌悟さん(生3)

タイ：飯田智也さん(経3)、河合将貴さん(商2)

○エンディングミニコンサート

アカペラサークル Accord メンバー9名

山根ゆうみさん(文3)、福田洋さん(生3)、植西光貴さん(理2)

納屋亜加里さん(生3)、大出真敬さん(商3)、栗田汐里さん(文3)

佐々木徹さん(工院M1)、滝井祐輔さん(経2)、栗本信哉さん(法2)

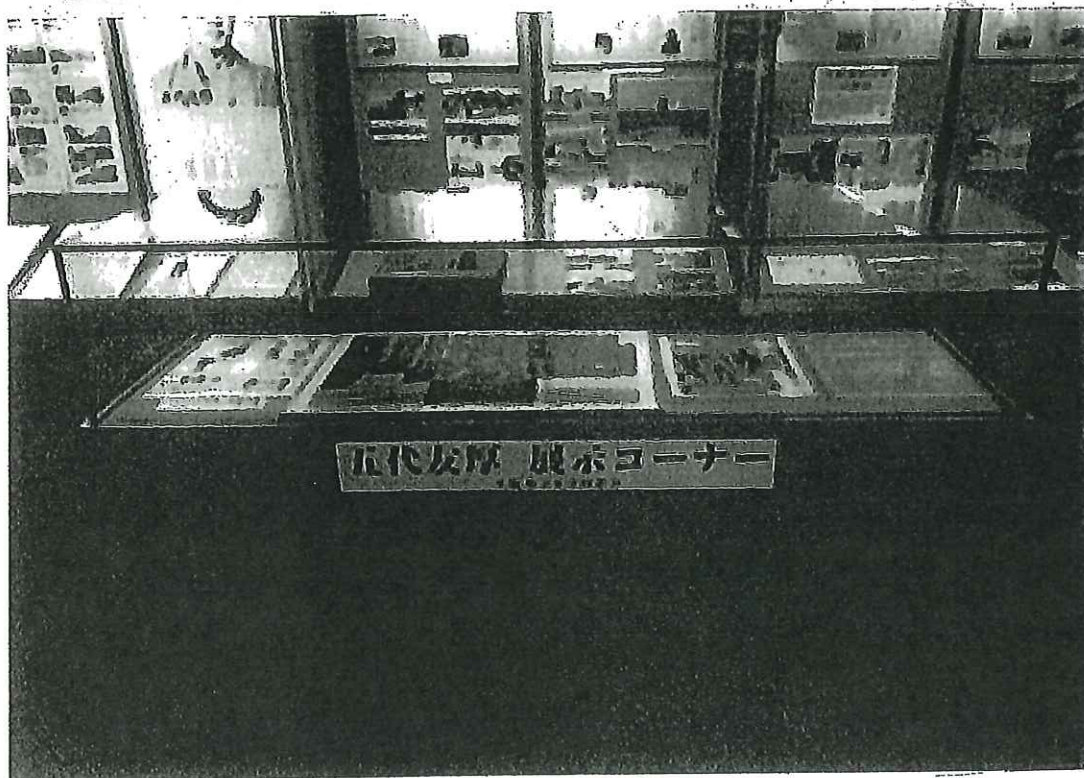
演目 365日の紙飛行機等

## 5. 五代友厚パネル展示

場 所：学情大学史資料室コーナー一角

開催期間：2018年5月23日～2019年3月28日

※『「同窓会展示コーナー」の貸借に関する覚書』を学情センター、大学史資料室、全



## II. 五代友厚記念事業プロジェクト寄付

### 1. 五代友厚記念事業プロジェクト寄付協力のお願い (再度のお願い)

卒業生の皆さま

平成 30 年 12 月 吉日

大阪市立大学同窓会 会長 児玉 隆夫  
有恒会 会長 岡本 直之

#### 五代友厚記念事業プロジェクト寄付協力のお願い (再度のお願い)

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

4 年ほど前に卒業生の中から沸き起こった「市大キャンパスに五代友厚像を建てよう」という運動が多くの卒業生の協力を得て、2 年余前に銅像建立の除幕式を迎えることができました。その節は本当にありがとうございました。五代友厚像は当時の NHK 朝ドラの影響もあって大きな関心と呼び、たくさんの方に見に来ていただきました。今や五代友厚像は市大キャンパスの名所の 1 つになりつつあります。

しかし他方で五代友厚はどのような活動をした人かについて知っている人はほとんどいません。「大阪の大恩人」と言われながら、その地元でさえよく知られていないことは残念なことです。特に市大で学ぶ学生には、五代友厚が本学の元になる大阪商業講習所の創建に中心的な役割を果たした人でもあるので、五代についてもっとよく知り、その志を継いでほしいと願っています。

五代友厚について書かれている書物の数はかなり多いのですが、あるものは小説であったり、また、五代の活動の一部に焦点を当てたものであったり、生涯にわたって史実に基づいて書かれたもので一般の私たちに読めるものは見当たりません。また、「北海道開拓使官有物払い下げ事件」のように国家が大金を注ぎ込んだ事業を五代たちがつくった関西貿易社が安く払い下げてもらおうとしたという報道で五代のイメージを悪くしている件などは、住友史料館報に載った近年の研究で五代本人の弁明書の発見されたことが明らかにされ、それによって五代の無実が判明するなど、これまで誤って伝えられていた事柄もいくつか分かってきています。

このようなことから同窓会は、五代友厚の業績について正しくご理解いただくために、また、より多くの人に知ってもらうために「五代友厚伝」を刊行することになりました。執筆は八木孝昌氏 (経昭 41) をお願いすることにしました。

同窓会としましては五代友厚の「銅像の建立」と「伝記の刊行」は両者で一对をなすものと考えており、今回の伝記の刊行も是非とも成功させたいと願っております。また、五代友厚記念事業プロジェクトとしては「伝記の刊行」の他に、五代友厚の志を受け継いだ海外に羽ばたく学生を育てるために、大学への寄付講座「国際ビジネス演習」および「海外インターンシップ」を実施いたします。「伝記の刊行」は大学創立 140 周年記念に合わせて、2020 年 11 月予定で、「国際ビジネス演習」と「海外インターンシップ」は、毎年続ける予定で、五代友厚記念事業費として寄付金総額 2,000 万円を目標にしております。

前回の寄付のお願いからまだあまり年月が経っていない中で再度の寄付のお願いをするのは誠に心苦しいのですが、銅像の建立に始まる一連の事業にこれで区切りをつけたいと考えております。卒業生の皆様におかれましてはどうかご理解をいただきたく、よろしくお願いたします。

なお、既にご寄付いただいている場合、行き違いになりましたことをお許しくくださいますようお願い申し上げます。

謹白



# 五代友厚記念事業プロジェクト寄付のお願い

明治維新  
150年



平成28年(2016年)3月の五代友厚銅像建立(除幕式)プロジェクトに続いて、第二回と致しまして、五代友厚の思いと志を後世に伝えることと、若い世代の方に五代の海外を見据えたグローバルで進取の精神を引き継いで頂くため、下記の記念事業プロジェクトを企画しております。

どうぞ趣旨をご理解のうえ、寄付にご協力頂きますようお願い致します。

## 記念事業内容について

### 「五代友厚伝(仮称)」の刊行

五代友厚の足跡・業績などを史実に基づいて正しくご理解いただくために、また、より多くの人に知ってもらうために在大学生や市大卒の若い層を中心に、一般の方々にも読みやすく分かり易い書物として刊行します。

執筆者は、八木孝昌氏

(経昭41卒・文学博士・大阪教育文化振興財団理事)

刊行は大学創立140周年記念に合わせて、  
2020年11月予定です。



\*写真はイメージです。

### 大学への寄付講座「国際ビジネス演習」の開設

グローバル人材育成を目的に在大学生約20名を対象として、演習講座(2単位)を15回に分けて授業。平成30年度より開講済み。

### 「海外インターンシップ」の実施

国際ビジネス演習受講者を対象に、成績優秀者を2018年から若干名を海外に派遣。  
(2018年夏季、香港・タイに各2名派遣済)



海外インターンシップ報告会(平成30年11月3日)

### 「五代友厚展示コーナー」の設置

学術情報総合センター1Fにある大学史資料室展示コーナーの一角に、五代友厚関係資料などパネル展示。



## 第二回 五代友厚記念事業寄付者ご氏名

(順不同、平成30年10月31日現在)

旧大阪商大(4名)	竹俣 正孝(S.28)	小出 勲(S.28)	山縣 一晃(S.27)	石野 喜次(S.28)					
商学部 (50名)	吉田 俊雄(S.40)	岩佐 孝彦(H.5)	羽原 顕三(S.38)	大西 基勝(S.52)	上村 修三(S.53)	渡辺 敏一(S.36)			
	末村 亘(S.46)	中田 弘美(S.50)	武部 弘(S.30)	堀江 亘(S.35)	金澤 昌俊(S.58)	繁 幸江(H.12)			
	久保田千鶴(H.25)	大手 崇(S.28)	徐 龍達(S.32)	吉田 幸雄(S.33)	藤田 武司(S.33)	前田佳稔夫(S.35)			
	池永 英夫(S.35)	松永 和泰(S.36)	杉森 道弘(S.37)	窪田 雄一(S.37)	藤原 謙(S.37)	鈴木 重喜(S.37)			
	橋本 正昭(S.37)	新居 周三(S.38)	立石 益得(S.39)	成山 正博(S.40)	玉置 昭(S.41)	中内 哲夫(S.41)			
	宮高 智彦(S.42)	吉原 幸一(S.42)	坂口 隆治朗(S.42)	下田 裕久(S.42)	小角 勝次(S.43)	鈴木 章彦(S.43)			
	奥田 政一(S.46)	楠本 安男(S.46)	梶原 謙治(S.46)	日 大吉(S.47)	河田 行隆(S.50)	吉備 文昭(S.51)			
	植嶋 平治(S.51)	亀井 信吾(S.52)	貴名 徹(S.53)	吉武 一郎(S.54)	水谷 雅英(S.56)	福嶋幸太郎(S.58)			
	富藤 泰(S.58)	山口 高志(S.63)							
	経済学部 (50名)	金森 靖紘(S.46)	林 昌夫(S.35)	齋藤 三朗(S.34)	山科 吉弘(H.17)	竹内 真理(S.61)	前田 和彦(S.56)		
河崎 清(S.29)		奥平 昇郎(S.38)	宮崎 憲司(S.40)	八木 孝昌(S.41)	清成 真一(S.53)	石黒 直文(S.29)			
横山 修一(S.30)		石原 靖造(S.32)	上村 正昭(S.33)	柏木 敏治(S.33)	嶋田 繁(S.33)	植田 一(S.34)			
柴山 道夫(S.35)		古家 章(S.35)	中井 敏男(S.36)	坂 弘志(S.37)	宮澤 博臣(S.37)	寺田 正博(S.37)			
小林 保司(S.37)		森 武義(S.39)	池澤 猛(S.39)	久保 昭(S.40)	島 征一郎(S.40)	蔵岡 一彦(S.40)			
食満 厚造(S.41)		齋藤晃一郎(S.41)	網島 邦三(S.41)	鈴木 莞爾(S.41)	出原 康雄(S.42)	平田 義継(S.43)			
辻 幹彦(S.43)		牧野 忠廣(S.44)	参鍋 洋三(S.44)	芦原 健(S.46)	尾川 賢吉(S.46)	中村 忠夫(S.47)			
伯井恵之助(S.47)		瀧川 実(S.49)	松浦 康裕(S.50)	山本 博(S.51)	宮永 昭弘(S.55)	伏見 隆晴(S.57)			
前野 博生(S.60)		須谷 尚史(S.61)							
法学部 (38名)		植田 浩吉(S.44)	松原健士郎(S.45)	岡田 昭年(S.36)	加藤 修(S.43)	原田 紀敏(S.46)	田中 達三(S.48)		
	三崎 一彦(S.37)	西崎 光彦(S.51)	湯崎 一子(H.2)	上田 陽通(S.32)	涌嶋 俊計(S.34)	中川 清(S.35)			
	河野 修(S.35)	周藤 弘(S.36)	梅原 勲(S.38)	石黒 作一(S.38)	大川秀二郎(S.39)	堀田 建夫(S.40)			
	香村 雄司(S.40)	米田 尚實(S.41)	河野 猛(S.42)	小林 正典(S.43)	小林 俊介(S.44)	齋藤 郁朗(S.44)			
	猿渡 久二(S.44)	樋上 晴雄(S.45)	中井 敬三(S.49)	西本 佳照(S.50)	吉本 義人(S.51)	松田 雅三(S.51)			
	大迫 修一(S.53)	清田 祐二(S.53)	宮里 保男(S.53)	竹内 秀夫(S.55)	田中 正宗(S.58)	南雲 正明(S.56)			
	轟 昌一郎(S.57)	日下 雅己(S.57)							
	文学部 (19名)	福井 康子(S.35)	福田 八郎(S.37)	中塚 英子(S.36)	森本 喬(S.36)	浦崎 芳子(S.54)	北野 好浩(H.2)		
		梅原ちづこ(H.14)	中村 祐子(H.27)	東野美智代(S.33)	阪田 弘(S.33)	奥田幸治郎(S.34)	清水 正和(S.34)		
		高井二千六(S.38)	相 益代(S.38)	出立 欣次(S.39)	河野富士夫(S.42)	山元 良平(S.48)	河崎 良二(S.54)		
齋藤 仁(S.60)									
理工学部 (8名)	杉浦 重光(S.30)	笹部 良信(S.29)	木村 力男(S.30)	萩 武文(S.31)	玉井 義弘(S.32)	永嶋 司郎(S.33)			
	岩田 賢造(S.34)	小濱 太郎(S.34)							
理学部 (26名)	児玉 隆夫(S.41)	横田修一郎(S.46)	佐々木義人(H.28)	上田 信夫(S.51)	藤崎 忍(H.6)	荒木 彩人(H.22)			
	譲原 浩貴(H.29)	山口 喜一(S.36)	水谷 信雄(S.36)	法西皓一郎(S.37)	楠森 昭(S.37)	山本 高義(S.37)			
	森野 奎二(S.37)	松本 守平(S.37)	佐藤 清(S.38)	木村 一昭(S.39)	奥田喜代子(S.43)	宅 康次(S.48)			
	八田 守可(S.48)	山本 益資(S.48)	仲本 徳尚(S.50)	立川 隆洋(S.51)	沖津由紀子(S.51)	寺本 辰美(S.51)			
工学部 (60名)	筒井 康行(S.52)	西村 勇(S.57)							
	佐野 嘉彦(S.43)	竹中 和幸(S.49)	宇野 勝久(S.49)	大東 清四(S.25)	大塚 忠弘(S.42)	近藤 信勝(S.29)			
	中西 宏之(S.36)	角井 嘉美(S.41)	北村 英隆(S.46)	桂 洋介(S.51)	鈴木 勢治(H.3)	梅谷 敦士(H.6)			
	松尾 純也(H.7)	森下 英利(H.8)	松本 崇(H.8)	苅谷 顕(H.11)	野田 知哉(H.12)	丹下 俊彦(H.15)			
	倉本 亘(H.21)	廣藤 貴浩(H.30)	嶋 経夫(S.31)	中島 光夫(S.32)	福本 寛(S.32)	松本 亘(S.33)			
	佐藤 孝(S.35)	山田 祐造(S.35)	塩飽 弘(S.36)	近藤 紘一(S.37)	山内 静三(S.37)	浅原 浩介(S.38)			
	浜田 勝(S.38)	林田 博光(S.39)	岩崎 隆一(S.41)	望月 秋利(S.42)	森本 幹雄(S.42)	吉原 正邦(S.43)			
	水原 和夫(S.43)	端山 英孝(S.44)	榎井 利英(S.44)	福森俊一郎(S.45)	山本 孝(S.45)	神門 登(S.45)			
	田村 博美(S.45)	杉岡 泰蔵(S.46)	峯山多喜次(S.46)	藤井 俊秀(S.47)	岡山 保美(S.48)	浅井 真一(S.48)			
	望月 博(S.50)	高島佐太重(S.52)	針田 一朗(S.52)	池田 博英(S.53)	田中 三郎(S.53)	松田 浩(S.53)			
医学部 (23名)	永島 敏郎(S.55)	中塚 弘敬(S.55)	笹部 徹(S.56)	田邨 裕幸(S.59)	上田 和弘(S.61)	三品 文雄(S.50)			
	山田 忠尚(S.44)	塚崎 義人(S.29)	裏辻 康秀(S.45)	前田 泰生(S.29)	大道 彰(S.41)	辺見 茂(S.60)			
	安永 千尋(H.3)	佐井 吉永(H.4)	松村 昭(H.9)	加賀慎一郎(H.18)	藤森 貢(S.30)	三好 宏(S.35)			
	鈴木 隆(S.36)	曾和 悦二(S.41)	庄司 昭伸(S.43)	山戸 庸光(S.44)	桑島 士郎(S.45)	平松多喜男(S.50)			
荒川 哲男(S.50)	小森 忠光(S.51)	木村 進(S.52)	荒木 良彦(S.54)	寺井 岳三(S.59)					
看護学科 (16名)	上久保陽子(S.51)	高橋かおり(S.55)	山脇 康江(S.49)	安東満里子(S.25)	岡田 京子(S.29)	山根 悦子(S.33)			
	黒木 節子(S.36)	村上 周子(S.36)	三島 雅代(S.37)	三時 瑞子(S.38)	磯田 玲子(S.44)	安田恵津子(S.50)			
	石原 明美(S.51)	林 和華枝(S.55)	山田 早苗(S.48)	杉山 芳子(S.44)					
生活科学部 (38名)	河合 照幸(S.33)	木下 信枝(S.16)	源 照代(S.19)	藤石 照子(S.38)	金澤 栄子(S.41)	三木 孝子(S.44)			
	山本 祥子(H.1)	岡田 直人(H.6)	上田 静子(S.16)	鈴木 鈴子(S.20)	橋本 久子(S.25)	前田 和子(S.26)			
	中院 秀久(S.28)	吉原 民子(S.28)	中元 妙子(S.31)	斎藤 薫子(S.33)	井上佐知子(S.34)	並川 貞子(S.35)			
	津田つる子(S.35)	古屋せつ子(S.37)	佐藤 昌子(S.38)	竹森 培子(S.39)	竹田 紀子(S.39)	木下 洋子(S.40)			
	手塚千恵子(S.42)	兵庫 宏昭(S.42)	萩原 嘉子(S.43)	木下 清美(S.48)	岡田 佳子(S.48)	野上 洋子(S.48)			
	辻野 早苗(S.48)	新井 律子(S.49)	曲田 清維(S.52)	上原かすみ(S.53)	小前 昌子(S.53)	円谷 陽一(S.54)			
	吉村 智子(S.55)	阪口登志子(S.58)							
	創造都市(2名)	山崎 英彦(H.20)	新出嘉一郎(H.24)						
	その他(8名)	京都市上下水道局あびんこ会 木原 寿代 舘野 羊一 上村八重子 有限会社テル・クリエイト 鶴長 洋一 鵜飼 武彦 匿名希望者							

●学部別寄付状況

※平成30年10月末現在

卒業学部	旧大阪商大	商学部	経済学部	法学部	文学部	理工学部	理学部
件数	4件	50件	50件	38件	19件	8件	26件
金額	90,000円	1,280,000円	740,000円	620,000円	310,000円	90,000円	420,000円
卒業学部	工学部	医学部	看護学科	生活科学部	創造都市	その他	計
件数	60件	23件	16件	38件	2件	8件	342件
金額	860,000円	340,000円	300,000円	480,000円	20,000円	153,000円	5,703,000円

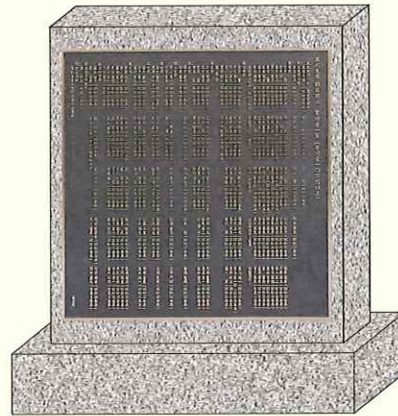
# 顕彰について

- 今回、10万円以上ご寄付の方は、五代友厚銅像建立時と同様、五代スクエア内に新たに設置する「五代友厚伝（仮称）刊行記念碑」の背面、銘板にお名前を刻み、未永く顕彰いたします。

< 前面 >



< 背面 >



(イメージ)

- 寄付（1口1万円以上）頂いた方に、「五代友厚伝（仮称）」1冊を進呈致します。（寄付者全員のご氏名一覧表を添付）

（学術情報総合センター 1F の「五代友厚展示コーナー」での顕彰を上記に変更）



右の振込取扱票に※必要事項をご記入のうえ、  
ミシン目で切り取って郵便局窓口にお持ちください。

02 大阪										払込取扱票										通常払込料金 加入者負担																									
口座記号番号										金額				千				百				十				万				千				百				十				円			
009301										173516				0000				0000				0000				0000				0000				0000											
加入者名 <b>大阪市立大学同窓会</b>										料金				備考																															
五代友厚記念事業プロジェクト基金として寄付します。 寄付者(該当に○) 1. 卒業生 2. 教職員 3. その他 住所 〒 - フリガナ 氏名 旧姓 卒業学部( ) 学部 (昭・平) 年卒 フリガナ 法人名 フリガナ 団体名 ■備考欄										自宅 TEL ( )				携帯 TEL ( )				法人・団体 TEL ( )				FAX 番号 ( )				日附印																			

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号大第 45730 号)  
これより下部には何も記入しないでください。

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

## 振替払込請求書兼受領証

009301										173516										通常払込 料金加入 者負担																									
口座記号番号										金額				千				百				十				万				千				百				十				円			
009301										173516				0000				0000				0000				0000				0000				0000											
加入者名 <b>大阪市立大学同窓会</b>										料金				備考																															
おなまえ																																													
ご依頼人																																													
料										日附印																																			
金																																													
備考																																													

この受領証は、大切に保管してください。

# 五代友厚記念事業プロジェクト 寄付のお願い (要領)

ご賛同下さる方は、このチラシ下の五代友厚記念事業プロジェクト寄付専用郵便局「払込取扱票」に必要事項(※)をご記入のうえ、お振込み頂きますようお願い致します。(振込手数料は無料)

ご寄付は、勝手ながら1口1万円とさせていただきます。(恐縮ですが今回も寄付金控除の対象にはなりません。)

- 専用の払込取扱票(赤色)がお手許にない場合は、郵便局備え付けの払込取扱票(青色)を使って、郵便局から下記口座にご送金ください。

加入者名：大阪市立大学同窓会      口座記号：00930-1      口座番号：173516

大阪市立大学同窓会事務局    TEL.06-6605-2113 / メールアドレス:aalumni@ado.osaka-cu.ac.jp

## (ご注意)

・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。

・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになる場合は、引換えに預り証を必ずお受け取りください。

・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。

・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙

課税相当額以上

貼付

印

この場所には、何も記載しないでください。